栗原市立鶯沢小学校　校長室だより

梅は蕾より香あり

いのちを大切にし，知性に富み，共に生きる喜びが分かり，たくましく時代を生きぬく児童の育成

※梅は鶯沢小の校木。梅の花は蕾の時から良い香りがすることから，将来大きな花を咲かせる人は子供の頃からその可能性が感じられるという言葉です。次代を担う子供たちへ　校長室より!

令和4年10月31日

石井桃子さんと鶯沢小学校

地域の皆様の協力を得て

第2学期始業式　手を挙げて自分のめあてを発表しました

鶯沢小学校と児童文学者の石井桃子さんとの縁はとても深く，「のんちゃん雲にのる」の作者が鶯沢で牧場を開き，読み聞かせを行っていたという話はとても有名です。私自身,鶯沢への憧れを持ちながらいつかは鶯沢小で勤務したいと思っていました。

『ノンちゃん牧場』

宮城県栗原市鶯沢，1945 年 8 月 15 日の玉音放送の後，石井さんは友人たちと農場建設のために開墾をはじめました。後にここは「ノンちゃん牧場」と呼ばれます。

狩野ときわさんと石井桃子さんの開墾と同時に，石井さんは執筆活動を開始『ノンちゃん雲に乗る』が出版されます。いつしか牧場はノンちゃん牧場と呼ばれます。

1956 年に石井さんは鶯沢小学校 5 年 B 組で読書の授業（読み聞かせ）を始めます。お昼には牧場のノンちゃん牛乳を子供たちに飲ませたそうです。卒業まで 2 年間授業は続きました。

この試みは，後の石井さんの活動の原動力となります。すべてはここから始まったそうです。

宮城県図書館の資料（ことばのうみ　2000 年 7 月）に，その 5 年 B 組で授業を受けた鶯沢町教委の課長さんの話（本校児童のお祖父様です）が出ています。現在も鶯沢在中のその方にお話を伺いました。また，もうひとかた，牛乳の試飲と読み聞かせの授業を受けたという方（やはり本校児童のお祖父様）にもお話を聞くことができました。

「担任の先生から，2 年間読書の授業と牛乳の試飲があると知らされた。当時はまだ給食がなく，他学級に申し訳ない気持ちだったが昼時間が待ち遠しかった。石井さんは週 1 回国語の時間に朗読。読書の習慣がなかったが，だんだん関心が高まり，1 週間が待ち遠しくなった。」（談）

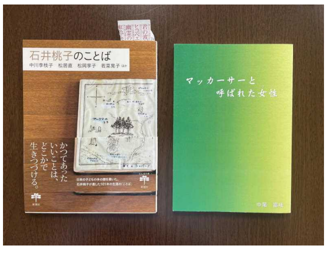
当時は「児童文学」が確立させていなかったため，石井さんの読む本は海外文学の「クレオ」など子供たちには少し難しいものだったようです。

『子どもと文学』

1954 年，石井さんは欧米視察に出発します。黄金期を迎えていた児童図書館と子どもの本の出版状況を見るためです。「日本でも児童図書館をこのように充実させよう！」あらたな挑戦が始まります。鶯沢での経験が石井さんを駆り立てたのだそうです。

児童文学の基礎を築き日本の児童文学史の開拓者でもある「石井桃子さん」の挑戦は，この鶯沢と鶯沢小学校での子供たちとの関わりから生まれたのです。改めて，今につながる地域の歴史を子供たちに知らせたいと感じています。

これまで，たくさんの方にお話を伺うことができました。この場をお借りして御礼申しあげます。まだまだ調べたいことがたくさんあります。情報いただければありがたいです。



※たくさんの資料をお借りしたり，いただいたりしました！ありがとうございました